

第3回コミュニティスクール検討会の概要

■概要

日時	令和6年5月7日(火) 午後3時00分～午後5時00分
場所	オンライン開催
出席者 (敬称略・50音順)	上沼 昭彦、河西 哲也、塩原 雅由、城村 義人、傳田 智子、早坂 淳、 伴 美佐子、堀田 茂樹

■主な意見

○学校運営参画の充実を実現させる上で課題となっていることは

- ・学校の中での議論や目指すべき方向性が地域の方々、保護者にしっかり伝わっているのか。可視化されていないことに課題感がある。情報に触れる量が多ければ多いほど、学校に対しての帰属意識や思いが高まり自分事として関わりやすい。
- ・情報共有には非常にエネルギーが必要。そこに子どもたちと向き合うエネルギーが割かれていくことは、本来の目指すべき姿とは違うのではないか。

○多様な他者との情報共有の伝達の難しさやコストをどう乗り越えていったらよいか

- ・その地域、その年々、その時々集まった人達の思いで、出来るところを精一杯やっていくことが、地域づくりとして学校の教育を作っていく意味で一つ大切なところではないか。
- ・無理をして何か新しいものを作り出して、回していかなければいけないというシステムにすると、恐らくうまくいかない。既にあるシステムの歯車を噛み合わせるという意識を持つことが重要。
- ・情報共有そのものが議論になるというよりは、情報共有を発信していく側の人を育てていくことに公民館としての社会的な意義や機能がある。

○学校と地域とのコミュニケーションのポイントとは

- ・まずは学校が変わることが大事。校長先生の立場から、最前線で活躍されている先生の立場から、これから学校はどのように変わっていったらいいのかというビジョンを持っていただくことが大事。学校も学校教育の問題を解決していくために、的確な問いをきちんと持ち、それを学校や地域の方々で共有していくことが大事
- ・先生方の学びの場に地域ボランティアも参加できるよう仕掛けている。互いに学ぶ機会を設けることで段々とお互いの理解につながっている。また、大人の中で大人同士が連携して共に学び合っている、それが他者理解に繋がる。親和性を持ってそれを行うことで、その姿を子ども達が見ることで、安心してこの地域で、この学校で学んでいいんだと子ども達が感じてくれることに繋がっている。

○学校と地域の連携・協働における段階とは

- ・誰もその連携協働のスペシャリストで最初からいたわけではなく、ゆっくりと地域も学校も歩み寄るように、どんどんと連携・協働の絆が深まっていくという熟度というか練度、階段を上がっていくようなプロセスが地域にも学校にもあるのだろう。
- ・コミュニティスクールの議論の難しさは実に多様な当事者の、多様な考えが一つの場に混ざり合うということ、要は可視化の問題。今、私たちはどうなっているのか、何をして、どこにいるのか、ここから先どこに向かっていけばいいのか、どの学校・地域にも大まかにこの辺りの段階にいるよねということが分かれば、きっと適切な個別の支援が教育委員会や地域の方から学校に対してなされるのではないか。
- ・コミュニティスクールについては、それぞれの地域の濃淡、スピード感、それぞれの歩み、取組があってもいい。まずは地域と学校が語れる場。課題解決型ではなくて、夢共有型というか…そのような場があってもいい。
- ・熟度の可視化には、意識的な部分と具体的な仕組を明確に分けることが必要。意識だけでは進めない部分も多くあるので、その具体的な仕組や体制づくりも議論していきたい。